

# 高木くん新聞

～江戸川区議会議員

## 高木ひでたか

による区政報告かわら版～

# 改革 前進



発行元 高木ひでたか事務所  
〒132-0024 東京都江戸川区一之江3-18-3  
TEL: 03-5661-4608 FAX: 03-5678-1678  
E-mail: jimukyoku@takagi-hidetaka.com

江戸川区 平成22年新年号

### 平成21年12月 第4回江戸川区議会定例会本会議開催

二〇一〇年寅年があげました。本年もよろしくお願ひします。

昨年来、急速な円高デフレの進行により、わが国の景気にとつては例年以上に厳しい年の幕開けとなりました。この現象は中小企業の多い本区にも多大なる影響を及ぼしております。不況下においても地域の連携を活かし、あらゆる対策を打つことが政治の役割だと思ひます。

そして昨年、我々自由民主党は、都議会、国会の各級選挙において厳しい審判を受けました。これらは、地域の皆さんから政党としての信頼を大きく失つたことの現れであります。この結果を重く受け止め、地域に最も近い立場の区議会議員として区民の声を確実に本区政に反映させていくことで信頼を取り戻していかななくてはならないと改めて感じております。本年もより一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

#### 第4回定例会が開催されました

前回の定例会同様、補正予算が組まれました。平成二十一年十一月二十六日から十二月八日にかけて第四回区議会定例会が開催されました。

ここで平成二十一年度の一般会計補正予算が決まりました。今回、六一億四八六三万円の予算が新たに計上されました。政権交代によって復活いたしました生活保護費母子家庭加算などにより福祉費の内容が大幅に変更となっております。またそれにより子育て応援特別手当が執行停止になっております。

そのほかの内容の主なもの表のとおりです。結果として年間の予算総額は二二二〇億六六七三万円となりました。これにより前年比 $\Delta$ %となりました。

そのほかに、①子どもたちに科学や自然、地域の歴史などを専門的、継続的かつ体験的に学ぶことができる場を提供し、未来を担う創造性豊かな子どもたちの育成のために、篠崎三丁目「子ども未来

#### 第4回定例会補正予算の主な内容（単位：千円）

区民生活費	東葛西地区区民施設建設用地取得費、東部地区図書館建設用地取得費 など	1,353,349
福祉費	保護世帯数・人員、医療費の増加、母子加算復活などの生活保護費の増額（40億円ほど） 子育て応援特別手当給付事業費の差し戻し（▲7億4899万円）など	3,842,138
健康費	新型インフルエンザワクチン接種費用助成 など	517,675
都市開発費	密集住宅市街地整備促進事業推進費 など	215,024
土木費	都市計画道路整備受託事業費 など	219,845

館」の設置すること、

②印鑑登録原票のデジタル化、③療養出産資金貸付条例の廃止（出産一時金の方が主流のため）、④三世代同居住宅資金貸付条例の廃止、⑤心身障害者住宅整備資金貸付条例の廃止、⑥区立篠崎子ども図書館の設置、⑦スポーツセンター耐震補強工事の請負契約（二億二二五五万円）、⑧新川広場橋の架設工事請負契約（三億二五五七万円）、⑨一之江駅南口広場における地下機械式自転車駐車場の整備工事請負契約（二億二六二五万円+三億一八一五万円）などが決まりました。昭和四〇年代から始めていた今や役割を終えた条例の廃止が目立っています。

文教委員長として  
本会議場で委員長報告



## 文教委員長として

○九年度は文教委員会の委員長を拝命されています。議会側の教育部門の責任者といった役割を担っており、区における教育関係で決まったことの報告を受け、区議会に上げられる教育関係などの議題を先に確認する作業をしています。昨年までも担当から多くの報告事項を受けながら区議会の議題について吟味しております。

そのなかで、子どもたちの読書環境の充実を図るべきとの案件があり、区における図書館運営の問題点と照らし合わせて良い具体例を探すことになり、石川県金沢市における「玉川子ども図書館」の例が挙げられました。

金沢市では、平成十三年十二月に「子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例（通称・子ども条例）」を制定し、平成十六年から「金沢子ども読書推進プラン21」を推進しています。そのプランから子どもたちに向けての図書館設置を計画、十三億円かけて整備しました。その蔵書は十一万冊にも及び、多くの地元企業からの図書寄付が行われています。さっそく現地に飛び視察してきました。

玉川子ども図書館前にて



### 昨今の教育問題についての雑感

国会において日増しに民主党の政策の限界やそれに対する財源がないことの問題点が浮き彫りになっていきます。そうしたなか、本年の役割上、国政における教育関係問題の動向により目を配っています。

私が注目したものの一つに「教員免許更新制度」の廃止があります。この更新制度は安倍内閣の平成十九年六月に成立した改正教育職員免許法に基づいて導入

## 昨今の教育問題の動向について

され、本年四月から施行されました。政権交代がなされたとは言え、昨年の衆院選で示された民主党のマニフェストではこの制度を見直すと言われていただけで、その是非や制度の効果の議論がほとんどされないままに廃止に向けて動いています。

この制度は文部科学省の諮問機関である中央教育審議会の答申に踏まえたものであり、ないがしろにできるものでもありません。今一度この制度が必要だと答申した背景を見ていただき廃止すべきかどうかの議論をすべきと考えます。

また、昨年十一月に国家レベルの事業仕分け作業が行われ、そのなかで「全国学力・学習状況調査（いわゆる全国学力テスト）」への予算配分を大幅減額させるという判定ができました。この調査は二〇〇七年に実施されたもので、次に行うのは二〇一〇年四月です。前回においてさまざまな問題が提起され、見直しながら次回行うことは以前より検討されてきました。

調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点で各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにあります。

前回は国語と算数（数学）の二教科で小学六年生と中学三年生の全児童生徒を対象に行われました。都道府県別に出された結果を重んじ、教育水準の向上に向けてそれぞれの地域でその後さまざまな試みが行われてきています。

来年は三年前に小学六年生だった生徒が、中学三年生となり「全国学力・学習状況調査」に参加します。三年間の学習の成果を地域ごとに検証できる初めての機会であるにも拘わらず、あえて予算を大幅削減して「抽出方式」に切り替える合理的な理由がありません。

私は、全国一斉に行うテストだということが重要なのだと感じます。二教科に限ることなくもっと多くの科目で児童生徒の学力を測り、きわめて細かい施策で学力を伸ばしてあげるようなデータ作りが重要だと考えます。

こうした面でも再検討してほしいところです。

高木ひでたか  
私のプロフィール

昭和42年3月13日

江戸川区一之江生まれ



### 略歴

一之江小学校、松江第五中学校卒業  
東海大学付属浦安高等学校卒業  
東海大学文学部英文科卒業  
平成12年 社団法人東京青年会議所 理事・政治行政室室長  
平成15年 江戸川区議会議員初当選（現在2期目）  
現在 文教委員会 委員長  
街づくり・防災対策特別委員会 委員  
自由民主党江戸川総支部 事務局長



”メルマガ「たかぎ君」と一く”  
登録者大募集！

takagi-kun@yiii.co.jp

上記アドレスに  
空メールを送れば登録完了です。

日々の区政活動報告の詳しい内容は、  
ホームページを是非見て下さい。

www.takagi-hidetaka.com



# 高木ひでたか事務所

〒132-0024 東京都江戸川区一之江3-18-3  
TEL: 03-5661-4608 FAX: 03-5678-1678  
E-mail: jimukyoku@takagi-hidetaka.com